おんがく広場

♪Music Square♬
第172号

令和4年（2022） 5月16日（月）
発行・クッキー会　発行責任者・加藤良一
連絡先　rkato@max.hi-ho.ne.jp

Facebook,Twitterにも掲載／リンクフリー／御自由にコピーして下さい　令和2年(2020)4月10日創刊

創立30周年記念　第12回　東京バーバーズ・ショウ

5月15日、東京バーバーズが東京文化会館大ホールを大いに盛り上げました。昨年のショウはコロナ禍で延期となり、ようやく開催に漕ぎつけた今年、奇しくも創立30年を迎えました。客席は間隔を空けず自由席も設定され、多くの聴衆で埋め尽くされていました。

東京バーバーズは、米国のバーバーショップスタイルを採り入れたコーラス・グループです。1992年**コーラス・ショップ**という団名で埼玉県ヴォーカル・アンサンブル・コンテストに出場、これがデビューとなりました。1997年第1回ショウを開催、1998年ホノルルで行われた第2回環太平洋バーバーショップ大会コーラス・コンテストに参加しています。その後隔年でショウを開催してきました。ところが、2021年5月に予定していたショウが、コロナ禍の影響で延期となり、ZOOMによるオンライン練習を続けながら、ようやく今回のステージの実現となりました。"SHOW STOPPER SONGS"とは、「ショウがとめられてしまうほど素晴らしい歌声」というキャッチーなフレーズです。

独特のハーモニー構成

バーバーショップ(BBS)は、アメリカを中心に発展したア・カペラ四部合唱で、その名のごとく、19世紀にアメリカの床屋で歌っていた黒人カルテットが起源だと言われています。

主に男声4部で演奏され、そのハーモニーは、はっきりとした調性と協和音、五度圏の和音進行で構成されます。パートは上から**Tenor、Lead、Bariton、Bass**という編成で、「バーバーショップの七度」と呼ばれる長三和音に自然七度音程を加えた和音が好んで使われ、これが倍音の多い響きを生み出す要素といいます。

バーバーズは上から4人、18人、7人、17人という布陣でした。また、BBSの特徴は曲の終わりにTag（タグ）という音を長く伸ばす技法でステージをいやが上にも盛り上げます。さらにBBSならではの表現が曲に合せた振り付けです。いかに聴衆を楽しませるかが重要なポイントとなっています。まさに、エンターテインメントなのです。

女声 & jammin'Zeb（ジャミン ゼブ） 賛助出演

ショウは、ゲストの**jammin' Zeb**と共に歌うジャズナンバー"Sing,Sing,Sing"で開幕しました。ゴルフキャスターとして名高い戸張捷（とばりしょう）さんのMCで進められ、1曲ごとに解説を入れ聴衆とのコミュニケーションを図るのがBBSの特長といえます。

写真提供：jammin'Zeb

1st Stageのテーマは〈LOVE〉、えり抜きのカルテットが"When She Loved Me"など5曲を披露しました。中でも、マオリ族の恋の歌"Pokare Kare Ana"(波が立つ)は優しさに満ちた心地よい演奏でした。2nd Stage〈Celebration! 2022〉は4団体が結集した女声BBSによる"Great Day"など爽やかな歌声で手拍子が出るなど聴衆を魅了しました。3rd Stageは男声の〈GOSPEL〉、"Swing Down Chariot"、"Joshua Fit The Battle Of Jerico"(ジェリコの戦い)など得意の3曲でした。

4th Stageの**jammin' Zeb**は4人のヴォーカル・グループ。ジャズをベースに、ジャンルを超えて歌いこなします。このグループは東京バーバーズと縁が深く、Steve(仲光甫（はじめ）)は過去にメンバーでした。最後の5th Stageは、"A Spoonful Of Sugar"、"Ebb Tide"(引き潮)、サイモンとガーファンクルのヒット曲メドレーで締めくくりました。

本格的な対面練習が始められたのは、今年3月からでした。しかし、メンバーの士気は高く、音楽監督の**Roger Ross**さんも米国から来日して特訓を授け、本番に備えました。

生え抜（ぬ）きの指揮者**草井章**さんのご挨拶は、30年を迎えた喜びにあふれる感慨深いものでした。日本でBBSを歌う団体はまだ少数ですが、燎原（りょうげん）の火のごとくじわじわと合唱界に広がることを期待します。BBSについては、拙著『男声合唱は、いま！多田武彦先生追悼集』でも採り上げています。